

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人信愛学園
施設名	学研都市まぶね保育園
報告者（役職）	岡村 純子（園長）
住所・連絡先	福岡市西区徳永1124
	☎092-807-1379
	E-mail susenji2@izu.bbiq.jp

○タイトル（保育計画）

園庭乳児用固定遊具（アスレチック）の活用

○主な助成備品

HAGS社ユニミニ「アピスタ」（アスレチック遊具）

1. 保育計画策定の目的

本園は周船寺第二幼稚園に隣接しているため、園庭には幼児用の高いすべり台、木製アスレチック等が設置されているが、乳児用園庭遊具がほとんどなく運動機能を高めるためのものがなかった。園舎の前には広い芝生があるが、ただ走り回ったり、転がったりするのみで斜面の重心移動やバランス感覚、空間の認識機能等を養ったり、自分の体をコントロールして危険を予測する力が不足する傾向にあったため、乳児用アスレチックの必要性があった。

2. 具体的な実施内容

乳児用アスレチックには、どんなものがあるのか、どんな機能を備えているのか他園を見て回ったり、乳児の遊びの本の中から園庭遊具を探したり、保育業者のカタログを見たりして最適の物を見つけた。

こだわった点として、1才児・2才児各年令でも安全に遊べる遊具で、危険性のないシンプルなものを購入したいと考えた。

3. その成果と評価

1才児では、

- ・平面より斜面を登る方が握力を要求されるため、ハイハイが苦手だった子どもはハイハイの時期の動きを取り戻すことができ、自然に手が先に出るようになり、楽しみながら腕の力をつけられるようになった。

- ・すべり台を滑る時に立位から座位になり、胴のひねりがスムーズになった。
- ・狭い空間での身体移動を楽しめるようになった。
- ・初めはひとりで滑れなかった子どもも保育士が援助し、繰り返し遊ぶことでバランス感覚を養い、ひとりで滑れるようになった。
- ・慣れてくると頭をあげて前を向くことができるようになり、空間知覚を認識できるようになり、景色やスピード感を味わえるようになった。
- ・2才児の姿を見て順番やルールを学んでいった。
- ・囲われている空間の為、アスレチック遊具の中で他児と喜びを共感するようになった。
- ・「登れた」「滑れた」などの達成感を味わえるようになった。

2才児では、

- ・斜面を登る、すべり台を滑る等の組み合わせで、身体の動きの変化を楽しめるようになった。
- ・枠につかまり、斜面に登る際に重心を交互にかけることができるようになり、バランス感覚が身についてきた。と同時に握力がついてきた。
- ・空間を認識して動く等多様な動きの変化があるため、自分の身体をコントロールし、危険を予測する力がついてきた。
- ・順番を待つことや並ぶこと等ルールを学んで遊ぶことができるようになってきた。
- ・手や足を使い工夫しながら「登れた」「滑れた」という達成感を味わうことで、自信へと繋がっていった。
- ・自分で楽しんで自発的に体を動かすことができるようになり、遊んでいるうちに育ちの弱い部分を強化することができた。
- ・室内ではできない大きく体を動かす運動を開放感いっぱい遊ぶことができるようになった。
- ・他児と関わる絶好の場となり、お家ごっこやお店屋さんごっこなど、イメージを共有する遊びが盛んに行われるようになった。
- ・以前は園舎より離れた幼児用遊具で遊んでいた為、その場に行くために子どもの年齢に対して遊ぶ範囲が広がってしまっていたが、アスレチックが園舎近くに設置されたことにより、保育士の目もより行き届き易くなった。
- ・降園時には親子で楽しく遊ぶ姿が見られ、保護者同士の交流の場にもなっている。
- ・隣接する幼稚園の未就園児（2才児）に適切な遊具も無かった為、今では共有して遊べる丁度良い遊具になった。また、幼稚園の3才児もよく利用しており、異年齢交流もできる場ともなっている。

4. 今後の課題と展望

園庭にアスレチックだけでなく、乳児用の砂場を作り木を植え、葉っぱが紅葉したり、

それを使ってのままごと遊びや製作など、色、におい、大きさ、形等を感じとれる環境を整えていきたい。また、丸太を組み合わせた段差を作り、そこを渡ったり降りたりしてバランス感覚や足腰の力をつけていきたい。

戸外での遊びも室内と同じように、子どもがより豊かにより多くの喜びが提供されることが必要だと考えている。



以上